

# 東陽・新砂地区運河ルネサンス計画書



令和2年 9月

東陽・新砂地区運河ルネサンス協議会

## 目次

1. 目標・基本方針	2
2. 位置・区域	3
3. 運河ルネサンスによるまちづくり構想	4
4. 水域の利用に関する構想	5
5. 実現に向けて（具体案）	6

## 1. 目標・基本方針

東西に荒川と隅田川が流れ、南は東京湾に面し、河川や運河が縦横に走る江東区は、豊かな水辺環境に恵まれた区域である。そのため区等は、防災と環境に配慮しながら水辺の環境を活かし、親水公園、水辺の散歩道など住民と一緒に整備を続けている。

汐浜運河は、地下鉄東西線東陽町駅（一日平均乗車数約12.5万人）から徒歩5分と利便性が高い場所に位置し、両岸に緑道が整備されている。また、汐浜運河周辺には、マンションや、企業のオフィス、倉庫が立ち並び、住み働く人口が多い他、江東区のビジネスの中心という立地性から多くのビジネスホテルがある。このようなポテンシャルのある立地の中に、健康に関する行政機関や学校、企業が集積していることが特徴的である。

このように多様な人や組織がある一方で、同じ地域内にいても所属を超えてつながる機会が十分とはいえない現状もある。また、汐浜運河周辺は荒川が氾濫した際には浸水リスクを抱えるエリアであり、災害時に備えて普段からの防災意識を高めることが求められている。

このため、東陽・新砂地区の運河ルネサンスの取り組みでは、水辺を活かした汐浜運河周辺の健康・防災まちづくりを目指すものとする。

### ■ 運河ルネサンスの目標

#### 水辺を活かした汐浜運河周辺の健康・防災まちづくり

### ■ 運河ルネサンスの基本方針

《 まちの中で新しいつながりが生まれるきっかけづくり }

《 水辺の豊かさを享受できる空間づくり }

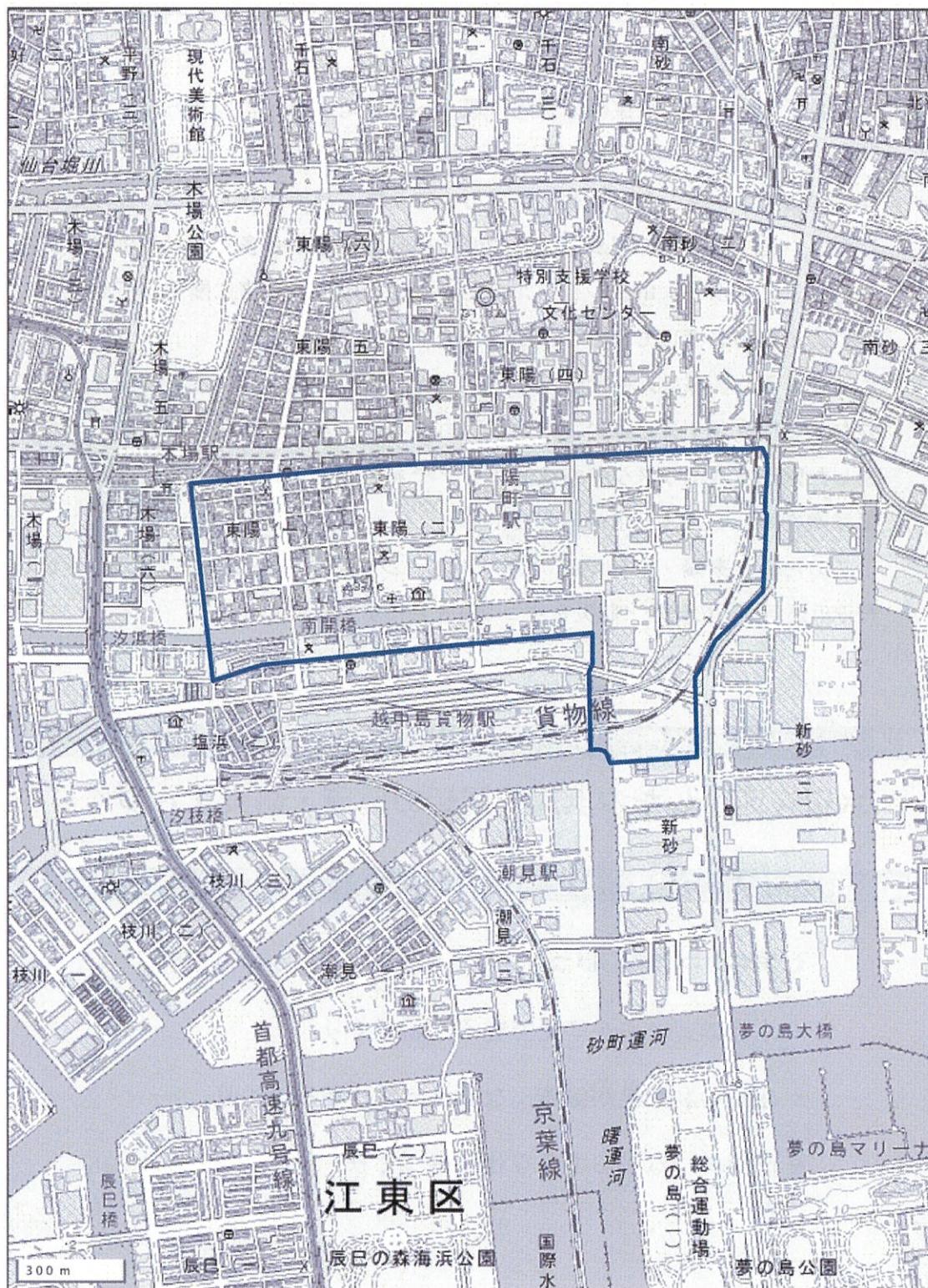
《 水辺の利用者が健康になるような仕組みづくり }

《 防災につながるような仕組みづくり }

## 2. 位置 · 区域

対象とする地区は、汐浜運河、汐見運河における下図の区域（陸域・水域）とする。

陸域の境界は、町丁目界を基本と考える。



### 3. 運河ルネサンスによるまちづくり構想

#### ○多様な人と組織との連携

戸建住宅が多い東陽一丁目と、マンション・学校・オフィスビルが立ち並ぶ東陽二丁目は、隣接していてもまちの様子は大きく異なる。またその中でも、働きに来る人と住んでいるとの人との接点は少ない。一方、過去に行ったまちづくりワークショップでは、街の中での新しいつながりを求める意見が多数上がっている。こうしたニーズに応え、活動を通じて様々な人や組織と連携することで、汐浜運河周辺における暮らしの豊かさ向上に貢献する。

#### ○水辺の積極的な活用

都市の中で水辺空間は、貴重なオープンスペースとして人々に憩う場を提供する他、水辺自体が地域のアイデンティティとなって周辺のコミュニティを強化する可能性を持つ。このような特性を持つ水辺を積極的に活用することは、まちにぎわいを創出し、住む人・働きに来る人がまちの特性を理解し、関わろうとするきっかけづくりとなる。

#### ○健康に寄与する仕組みづくり

成熟社会かつ超高齢化社会が進む今日、健康という豊かさがますます重要になってきている。そのような社会的背景の中、水辺空間の活用においても景観形成や商業集客を超えて豊かさに貢献できるような場が求められているため、活動を通じてハード・ソフトの両面で健康に寄与するような仕組みづくりを目指す。

#### ○安心安全なまちづくり

水辺空間は、日常の魅力だけでなく、地震の際の津波や台風時の異常潮位など、災害時におけるリスクを併せ持つ。こうしたリスクに対して活動では、まちに期待されている機能（防災船着場計画など）について、イベント等を通じて地域関係者で理解を深め、安全・安心な地域づくりに貢献する。

また、防犯面においても、水辺空間がにぎわい、人通りが増えることで、防犯カメラに依存しない自然な監視性が生まれ、安心して歩行できる環境の形成に貢献する。

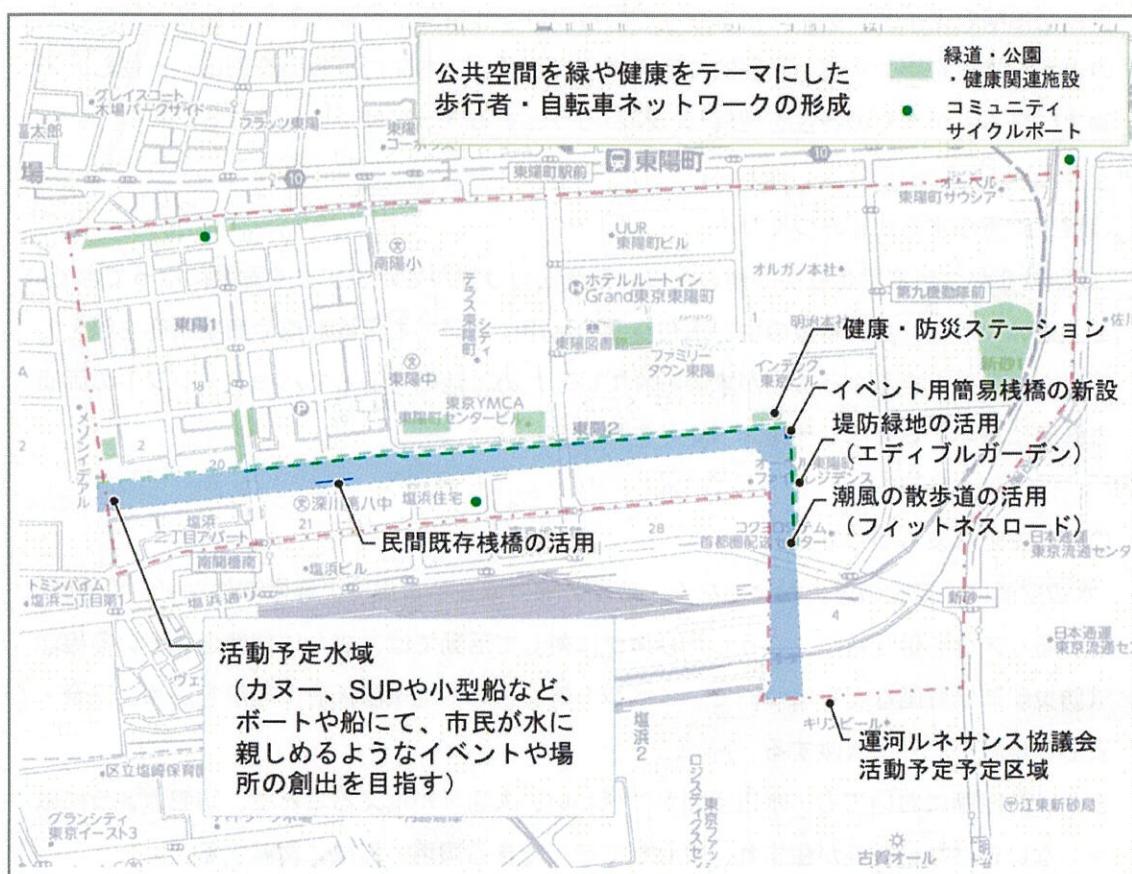
#### 4. 水域の利用に関する構想

汐浜運河の水域と周辺地域（東陽一丁目、東陽二丁目、塩浜二丁目の一部）、及び、汐見運河の水域と周辺地域（新砂一丁目の一部）を対象とする。

水辺には潮風の散歩道があるが、フィットネスロードとして整備やイメージづくりを進め、歩くと健康になる緑道づくりを目指す。

防潮堤沿いには緑地帯があるが、地域の住民や就労者が関わることができる緑として、例えば果樹のなる緑地帯を官民協働で管理することも考えられる。

様々な方策を重ねて、まちの裏側であった運河沿いに地域民が出てくる機会を増やし、水域へのふれあいを増やし、水辺の活性化と防災や健康づくりの意識向上と賑わいづくりを図る。



## 5. 実現に向けて（具体案）

### (1) 地域内連携を通じた交流機会提供

地域内は戸建住宅・マンション・学校・企業・行政機関等から成り、様々な人や組織がつながるポテンシャルがありながらも、そういった交流機会は十分とは言えない。

このため、防災ワークショップなど各種活動を周辺の学校や企業等と連携しながら行うことで、地域内で新たなつながりが生まれるきっかけを作る。また、各種活動は汐浜運河情報が載っている専用ホームページやSNS上で発信し共有していく。

### (2) 水辺の豊かさを感じられる、施設整備やイベント開催

東陽町駅から徒歩5分であり、住宅・オフィスが立ち並ぶ中にある汐浜運河の立地条件は恵まれているが、その水辺は活用できていない。そこで、積極的に水辺を活用していくため、汐浜運河周辺で施設整備やイベント開催を推進する。

具体的には、汐浜運河の水面を眺めながら憩える空間となるテラスの整備や、避難訓練や水上アクティビティに使用する簡易桟橋の整備を図る。

また、イベントとしてカヌーやSUP体験、舟運実証実験等の水上アクティビティの推進に加え、新たな水上の活用方法としての映像上映や水上防犯システム実証実験などを図る。

### (3) 健康づくりに寄与する仕組みの創出

成熟社会かつ超高齢化が進行する社会的背景の中で、健康の重要性は増している。汐浜運河周辺には健康に関する企業や施設が多く集積しており、これらの組織と協力し、運河を訪れることが自身の健康づくりにつながるような仕組みを生み出すことを推進する。例えばヘルスケアアプリ、ハーブ植栽を通じて汐浜運河を歩きたくなる仕組みや、歩幅調整や歩行姿勢測定機の設置を通じて自らの健康に関する現状をチェックできる仕組みを導入する。

### (4) 防災につながる施設整備やイベント開催

汐浜運河周辺は、荒川氾濫時には0.5m～3mの浸水リスクを持つ。このため、イベント的に楽しみながらも災害への備えとなるような活動を推進し、平常時から周辺企業・住民の防災意識を高める。具体的には、企業・住民で行う防災ワークショップ、船での避難訓練イベントを図る他、施設面では、防災倉庫の設置や水辺と陸のスムーズなアクセス確保等を図る。

